

■夢の実現へリニア中央新幹線 54
リニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会総会が開催されました

「リニア中央新幹線」計画についてシリーズでお伝えしています。

今月は、6月9日に多治見市で開催されたリニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会の平成26年度定期総会についてお伝えします。

問 リニア中央新幹線推進局
(☎内線 323・327)

リニア県期成同盟会総会開催

リニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会（会長 古田肇岐阜県知事）の平成26年度定期総会が、6月9日セラミックパークMINO国際会議場で開催されました。

総会では、平成26年度事業計画などの議案審議のほか、リニア中央新幹線の早期実現と利便性の向上などを求める8項目の決議が採択されました。（下段参照）

同盟会副会長である青山市長は「リニア中央新幹線プロジェクトに沿い、県下全域にリニアの波及効果がしっかりと及ぶよう、また、県発展の起爆剤となるようしっかりと取り組みを進めてまいりたい」と閉会の言葉を述べました。

【決議事項】

1 環境影響評価や、全国新幹線鉄道整備法に基づく「工事実施計画」の申請・認可など、必要な手続きを着実に進め、早期着工を図るとともに計画どおり事業を推進すること。

2 県内駅及び在来線既存駅（美乃坂本駅）の機能、設備については、地域の意見を聞き、適切な役割分担により整備すること。

3 県内駅利用者の利便性向上を図るため、停車本数の十分な確保や県内駅と東京間の所要時間の短縮など、ダイヤ編成の考え方を早期に提示すること。

4 県内駅利用者のアクセス利便性を高めるため、県内駅と岐阜・西濃地域や飛騨地域、長野県木曽・松本方面等を結ぶ中央本線など、在来線の所要時間の短縮や列車本数の増加、直通列車の運行などに配慮すること。

特に、中央本線については、特急「しなの」を美乃坂本駅に停車させるなど、アクセス・利便性を高めるとともに、高山本線及び太

多線については、輸送力強化策を検討し、早期に提示すること。

5 リニア中央新幹線の整備工場と車両基地からなる中部車両基地の概要を早期に示し、着実に推進すること。また、中部車両基地を産業観光資源として活用できるよう検討すること。

6 騒音対策をはじめ、具体的な環境対策にあたっては、沿線自治体等の意向に配慮すること。

7 事業の円滑な実施に向け、沿線自治体との調整を十分行うとともに、県内企業の受注機会の拡大や県産品の活用に配慮するなど、地域の振興につながるよう努めること。

8 リニア中央新幹線の整備に当たっては、「岐阜県リニア中央新幹線活用戦略」に沿った地域づくりの取組みに対して積極的に協力すること。

総会後、東光石油(株)代表取締役会長CEO、元熊本県新幹線元年委員会・観光立県県民会議委員長の石原靖也氏を講師にお招きし「リニア中央新幹線による地域づくり」をテーマに講演会が開催されました。

講演では、自身の企業活動の他に、九州新幹線開業に向けてのまちづく

り活動やイベントの開催、ゆるキャラの「くまモン」誕生に携わったことに触れ、「新幹線が来るということとは、地域をつくり直すきっかけとなる。新幹線には功（新しい地域づくりによって若い人が来てくれる）と罪（優秀な人材や資源が流出しやすい）の両面があることを認識した上で、市民ぐるみで地元の宝を磨き直し、我が町が聖地だと言えるよう、ふるさと意識を向上させる取り組みが重要」また、「駅から1〜1時間半といった程良い距離にある奥座敷のような所に成功のカギがある。有名観光地といった点で勝負するのではなく、周辺地域と連携して周遊コースを作るなど、面の観光で勝負していくことが大事」といったお話がありました。



講演会の様子